

歴舟川流域水環境保全計画

～ 日本一の清流を次世代へ引き継ぐために私たちにできること ～



歴舟川上流からカムイコタンを望む

平成21年3月

歴舟川流域ネットワーク会議

はじめに

1 計画策定の経緯

歴舟川は、過去6回、環境省に日本一の清流に認められるなど町民にとっての誇りであり財産です。

しかし、昨今の地球温暖化の影響、生活習慣の変化、木材需要の低下などによる森林環境の悪化、農地開発及び河川改修による保水率の低下など、歴舟川を取り巻く環境が大きく変わってきており、歴舟川にかかる負荷も大きくなってきています。

それは、日本一の清流に何年も選ばれていないこと、流水量の低下が見られることなどからもうかがえます。

一方、農山漁村地域の役割が見直され、都市と農山漁村地域の交流が活性化するなど、まちづくりの手段として歴舟川の果たす役割はますます大きくなってきています。

それらを受け、平成20年度に道の「健全な水循環確保推進事業」の対象流域となったことを契機として、町内の関係機関が結集し、住民主体のネットワーク会議を設立し、歴舟川の環境保全に向けて課題や目標を検討することとしました。

2 基本的な考え方

(1) 基本方針

本計画を策定するにあたり、町民の目線にたち実効性のある計画とするために次の5つの基本方針を掲げました。

- 1 歴舟川の水環境保全を図るため、歴舟川的全流域を対象
- 1 町民・関係機関・行政が一体となった「協働」による水環境管理
- 1 規制的手法ばかりではなく、本計画を基本とする水環境管理に係る具体的な活動の実践
- 1 「まちづくり」を通じた水環境管理
- 1 本計画をマスタープランと位置付け、次年度以降も継続した会議の開催

(2) 計画期間

平成21年度からおおむね10年を計画期間とし、計画期間の中間年等において必要に応じ見直しを行います。

第1章 歴舟川流域の概要

1 歴舟川の概要

歴舟川は、日高山脈南部のコイカクシュサツナイ岳（標高1,721m）に源を発し、全長64.7kmの二級河川で、ヌビナイ川、中の川、振別川、芽武川等の支流を合わせると流域面積は558.5km²に及びます。大樹町の面積が816.38km²であり、ほぼ全域が歴舟川流域であることがわかります。

「レキフネ」の名は、アイヌ語の「ペ・ルプネイ」に由来し、「水大きくなる川（嵐又は西南の風吹く時は急に出水する）」の意とされています。

また、昭和62年から3年連続日本一の清流になり、その後、平成12年までに通算で6回日本一になり、平成8年には当時の建設省国土庁から水の郷百選にも指定を受けています。

2 流域の状況

歴舟川流域は、上流部が日高山脈・襟裳国定公園に指定されるなど、優れた自然環境にあり、エゾイタヤ、シナノキなどが広く分布し、エゾシカやキタキツネなどが生息する豊かな森林に囲まれた渓谷の中を流れ、市街地に至るまで原始の姿そのままに清流が流下しています。河道は、急流河川であるため早瀬と淵が連続し、ヤマメやニジマスなどが生息しており、これらを捕食するカワセミなどの姿も見られます。

下流域から河口部にかけては、牧草地が広がり、タンチョウ、オジロワシ、オオワシなどの姿も見られます。

流域の土地利用は約70%が山林ですが、中下流部の平地には畑、牧草地などが広がり、中流部の大樹橋周辺には市街地が形成されています。

河川空間の利用については、上中流域には坂下仙境やカムイコタンの景勝地があり、砂金掘り体験地やオートキャンプ場に利用され、中下流域の高水敷は、左岸はスポーツや清流まつりのイベント会場として、また、右岸はパークゴルフ場として利用されており、住民憩いの場となっています。



3 歴舟川の利用

水利用としては、大樹町の水道を全部供給する重要な水道用水として利用されているほか、農業用水、工業用水、養魚用水として利用されるなど大樹町の水源となっています。1日の給水量は6,150m³で、町民6,200人、家畜20,000頭分を給水しています。

また、十勝支庁管内におけるさけ増殖事業の重要な河川として位置付けられ、サケの孵化・放流が行われており、河口付近では成魚の捕獲事業が行われています。

第2章 歴舟川流域の現状と課題

1 水質等の状況

水質については、平成20年11月に環境省が公表した平成19年度公共用水域水質測定結果で大樹町の環境基準点である尾田橋と歴舟大橋の2箇所とも、BOD（生物化学的酸素要求量）が0.5mg/L未満となりました。

しかし、生活環境に係る環境基準項目（pH、BOD又はCOD、SS、DO、大腸菌群）全てについて基準値を満足している水域を対象としているため、歴舟川は除外され、日本一の清流には選ばれませんでした。

また、水量については、統計データはありませんが、ここ10数年で水量が2分の1以下に低下したという声が聞かれ、水量の低下による漁業等への影響が心配されています。また、大雨等による流木の流出も漁業への影響が懸念されます。

2 水質保全の取組

水質保全の取組では、「歴舟川の清流を守る会」による河川清掃や川辺の観察、行政区による環境美化活動の推進、町と漁業協同組合による植樹祭の開催、帯広土木現業所による砂防ダムの流木除去、役場フィッシングクラブによるヤマメ放流など、歴舟川に関わる住民団体や行政などが積極的に活動を行ってきました。

3 地域活性化の取組

観光協会の主催による歴舟川清流まつりや歴舟川清流こいのぼり、尾田地域の実行委員会によるカムイコタン公園まつり、カムイコタン農村公園におけるオートキャンプ場の整備、恵ツアーリズム大樹による滞在型観光の取組など、歴舟川の優れた水環境、資源、景観を活かした地域活性化の取組を行ってきました。

第3章 目標（めざす姿）

1 優れた水環境の確保（維持）

豊かな自然が残された素晴らしい環境及び景観を保全し、次の世代に引き継いでいくことは町民の願いでもあり責務であるといえます。自然は、人々の心のふるさととして心身にうるおいと安らぎを与えてくれるものです。これからも町民が一体となって、流域の特性に応じた水質、水量、水生生物、水辺地などを含む環境及び自然景観を保全し、歴舟川が再び日本一の清流に選ばれることを目標とします。



2 優れた水環境を活かしたまちづくり（地域活性化）

大樹町の豊かな自然環境のもとで、暮らしを支える各種産業を発展させてきましたが、自然との共生により地域経済の活性化に取り組んでいかなければなりません。

本計画においては、当面する人口減少などの課題に対処し、地域が十勝全域や南十勝4町村における新たな役割を担うとともに、産業構造の高度化、国民の価値観及びライフスタイルの多様化といった時代の潮流に的確に対応しつつ、歴舟川流域の優れた水環境を活かしたまちづくりを目標とします。

第4章 目標達成のための施策

1 環境保全活動

（1）歴舟川の水質調査

道の公共用水域水質測定調査地点以外の水質調査を実施し、基礎データを蓄積していくことで、環境保全対策の基礎資料とします。また、町民の参加により、身近な自然を観察し、環境の変化を感じ、歴舟川の未来について考えるきっかけとします。



調査地点：豊里川合流地点、ふるさと大橋下
流域、振別川、芽武川など

(2) 町民参加による自然観察及び清掃活動

歴舟川の清流を守る会や町内会・行政区が実施している河川清掃を広く町民に呼びかけて活動を展開し、町民がより親しみを持ち、河川愛護の精神を育むための啓発活動等を行います。

また、自然観察会や自然公園の美化清掃への参加などを通じて、自然のすばらしさを理解し、さわやかな空気、水、多様な野生生物など豊かな自然環境を守る機運を高めるよう取り組みます。



(3) 植樹

私たちは、呼吸により一生で6.4トンの二酸化炭素を排出するといわれています。これをオフセット（相殺）するためには、一人30本の植樹が必要であると試算されています。また、森林機能の保全や二酸化炭素の吸収など、森林の持つ重要性が改めて注目されていることから、町及び漁業協同組合が実施している「町民植樹祭」及び「漁民の森植樹祭」に継続的に取り組みます。



(4) 河畔林を利用して自然観察林の整備

緑苑河畔林は大樹町の市街地に近接し、自然林が残されている地域であることから、自然観察林として活用し、観察コースを整備し樹木、野草名板を整備するよう検討します。



(5) 環境教育

歴舟川の清流を守る会、町、森林管理署、教育委員会が一体となって、カムイコタン歴舟の森を活用した森林学習を実施し、将来を担う子どもたちに、自然に親しみ、自然を楽しむことを通じて、海と川と山の関連性や、人間が生態系の一部を担っており、相互に支え合う存在であることを学ぶ機会を継続して提供していきます。



(6) 歴舟川の水環境に配慮した産業の展開

大樹町の基幹産業である農林水産業は、最も直接的に自然環境に関係する産業分野です。また、観光産業などは、豊かな自然環境を資源とする反面、事業活動が環境に与える影響について十分に配慮する必要があります。

このため、環境に与える負荷をできるだけ低減するとともに、大樹町農業協同組合、町、十勝農業改良普及センターが連携し、環境保全型農業の推進に取り組めます。



2 地域活性化

(1) グリーンツーリズムなどによる交流人口の充実

ライフスタイルの変化や価値観の変化により、都市に住む人が農山漁村地域に滞在し、農業体験や自然体験を行うグリーンツーリズムが広まりをみせており、環境に負荷をかけないエコツーリズムと合わせて、都市と農山漁村地域の交流を推進します。



(2) 歴舟川清流鯉のぼり

毎年4月下旬から5月上旬まで、国道236号線沿い大樹橋上流付近に236匹の鯉のぼりを設置し、日本一の清流に認められた歴舟川をよりPRするとともに、子どもたちの健やかな成長を願う観光イベントとして継続して実施していきます。



(3) 砂金掘り探訪会

寛永12年(1635年)に始まったとされる歴舟川での砂金掘りを、以前のスタイルのまま楽しもうと、砂金掘り友の会が主体となって、毎年7月下旬に歴舟川砂金掘り体験地にて開催している砂金掘り探訪会を継続して実施していきます。



(4) 歴舟川清流まつり

過去6回、日本一きれいな川と評価された歴舟川の恵まれた環境を生かし、夏の一日を清流に親しむとともに、町づくりの推進を図ることを目的に開催している歴舟川清流まつりを継続して実施していきます。



(5) 飲料水の販売の検討

平成19年に帯広市が、稲田浄水場で作られた水道水をそのまま使い、加熱殺菌・ろ過処理などを行って、500ミリペットボトルに詰めた「帯広極上水」を販売しました。今後、関係機関と連携をとって、大樹町での実施の可能性を検討します。



(6) サケ釣りの実施の検討

釧路管内白糠町茶路川、根室管内標津町忠類川などで、「サケ有効利用調査」としてサケ釣りが行われていますが、今後、関係機関と連携をとって、大樹町での実施の可能性を検討します。



第5章 計画の着実な実施のために

1 大樹町総合計画との関係

大樹町が平成16年に策定した第4期大樹町総合計画（計画期間：平成16年度～平成25年度 10ヵ年）における基本計画と位置付け、歴舟川の水環境保全に向けた取組みを推進していきます。

2 歴舟川流域ネットワーク会議との位置付け

歴舟川流域計画策定後、計画の進行管理のため、次年度以降も定期的に会議を開催していきます。

おわりに

豊かな森林や河川、海、湿原、湖沼などが織りなす雄大な大樹町の自然は、様々な野生生物の生息の場であり、町内外に誇れる私たちの貴重な財産です。

その中でも、歴舟川は日高山脈に源を発し、太平洋に注ぐまで大樹町の1つの町だけを通る河川で、東西に広い大樹町の中心部を横断し、大樹町のシンボリック的存在として、昔から広く町民に親しまれてきました。

今後は、本計画を関係団体が一体となって推進していきます。



美しくきれいな川は、その町の住んでいる人の心が美しくきれいな証です。

巻末資料

計画策定までの経過

○平成20年 1月25日

北海道環境局環境生活部から「健全な水循環確保推進事業」の対象流域に指定したい旨の提案

○平成20年 3月 5日

「北海道の健全な水循環の確保に関する意見交換会」にて柳井清治 北海道工業大学教授によるレクチャー



○平成20年 4月14日

歴舟川流域ネットワーク会議の設立（第1回）



○平成20年 6月20日

第2回会議（歴舟川上流域の現地視察）



○平成20年 9月 5日

第3回会議（各団体からの提言書を基に検討）

○平成20年12月 3日

第4回会議（提言を基に骨子の作成）

○平成21年 2月 4日

「北海道の健全な水循環の確保に関するシンポジウム2009」

（パネリストとして伏見事務局長が参加）



○平成21年 3月19日

第5回会議（計画書についての意見聴取・計画書完成）

歴舟川流域ネットワーク会議構成団体

No.	団 体 名
1	歴舟川の清流を守る会
2	大樹産業クラスター研究会
3	恵（M.E.G.）ツーリズム大樹
4	NPO法人元気村
5	大樹遊漁案内船部会
6	大樹町行政区長連絡協議会
7	尾田申合会
8	砂金堀友の会
9	大樹町
10	大樹町農業協同組合
11	大樹漁業協同組合
12	大樹町森林組合
13	大樹町商工会
14	大樹町観光協会
15	大樹町教育委員会
16	大樹町農業委員会
17	西部森林管理署
18	帯広土木現業所大樹出張所
19	十勝森づくりセンター大樹事務所
20	十勝農業改良普及センター南部支所
オブザーバー	十勝支庁歴舟川流域サポートチーム